ころ

夏目漱石

上　先生と

　　　　　　一

　は人を常に先生と呼んでた。 だからでもた先生と書くで本名は打ち明けない。はをかるといよりも、方がに取て自然だからである。は人のを呼びすごとに、すぐ「先生」とたくなる。筆をてもは同じ事である。しい頭文字はとても使気にならない。
　が先生と知り合になたのはである。時私はまだ若々しいであた。暑中を利用して海水浴に行た友達から来いといを取たので、は多少の金をして、る事にした。 は金のにを費やした。ががに着いて三日と経たないうちに、私を呼び寄せた友達は、急に国元から帰れとい電報を受け取た。電報には母が病気だからと断てあたけれども友達はそれを信じなかた。友達はかねてから国元にる親達にまないをられてた。は現代の習慣からいとするにはあまり年が若過ぎた。それにの当人が気に入らなかた。で夏休みに当然帰るべき所を、わざとけて東京の近くで遊んでたのである。は電報をに見せてうしうと相談をした。 私にはうしていか分らなかた。けれども実際の母が病気であるとすればはより帰るべきであた。それではとう帰る事になた。来たは一人取り残された。

－15－